

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2370800795
法人名	社会福祉法人 しあわせあつくん
事業所名	グループホーム大喜
所在地	名古屋市瑞穂区大喜町二丁目79番地 052-889-2555
評価機関名	愛知県社会福祉協議会
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7愛知県社会福祉会館
訪問調査日	平成19年8月7日

【情報提供票より】 (平成19年7月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	9 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	4 階建ての 2 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52000-86000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷 金	有 (円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	100 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (8月 7日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1		1	要介護2		2
要介護3		5	要介護4		0
要介護5		0	要支援2		0
年齢	平均 82 歳	最低	77 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	成田外科胃腸科
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家の2、3階をグループホームに改修しており、居室は間取りや広さなどさまざまであるが、個々に家具などの配置を工夫し、好みの部屋となっている。共用空間は洋式、和式の部分があり入居者が好きな場所でくつろげる。ベランダには植物が植えられ、日よけを兼ねてほっとできる場所である。ホーム内は家庭的な落ち着きがあり、職員は理念の実践に意欲的で、入居者本位の支援がなされている。法人所有の車を利用して、入居者の希望に沿っての外出支援がされている。残存能力保持のための外部の高齢者との触れ合いの場であるデイサービスへの参加も実施されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題を運営者や管理者、職員で話し合い改善計画を立て改善に取り組んでいて、服薬支援や危険物の保管の見直しを行い、地域住民との交流への取り組みにも努力して、その結果も得られている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	職員はそれぞれ評価項目別に分担して行い、サービス評価の意義や目的を理解している。調査時の意見交換には、運営者も同席し、管理者共々調査員の意見を熱心に聞き質向上への取り組みの熱意がある。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は学識経験者、地域代表、利用者代表の参加を得て、これまでに二回開催されており、会議では地域との関わりについて検討され、幾つかの改善策も打ち出され、会議が質改善に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	重要事項説明書に苦情窓口が明記され、家族の訪問時にも意見を聞く体制作りがあり、その意見に対して、改善もしている。離れて過ごしている家族の不安への対応策として、毎月定期的に近況報告と金銭管理の報告や「グループホームだより」への取り組みが期待される。
	町内会に入会して地域の行事への参加を表明しており、喫茶店や散歩に出かけた時は地域の方々への挨拶につとめ、ボランティアの受け入れなどで地域との交流を広げつつある。運営推進会議でも地域との交流を議題にし、また、地域住民の声を直接聞き前向きに検討している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は母体法人と同じ「一人の人を大切に」と掲げ、介護の基本姿勢としている。さらに、「人は人の中に幸せがある、人の中で元気になる」と掘り下げ職員の共通認識としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの廊下とエレベーターに掲示され、職員採用時の研修でも話しており、月一回のミーティングでも話し合い、共有している。日々の支援の中でも理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、地域の行事などへの参加希望を申し入れているが、地域にも高齢者が多く、資源分別など地域の高齢者の生きがいとなっていて要請がない。日舞や音楽、落語などの地域のボランティアの受け入れなど地域との付き合いへの取り組みに努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は皆で分担して行っており、職員は評価の意義については理解している。前回の外部評価は皆に目を通してもらい、改善に取り組んだ。居間のベランダにゴーヤと朝顔が植えられ日よけにするなど、具体的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、学識経験者や地域の代表、利用者代表の参加を得て、グループホームの現状と困っている事柄について問いかけ、検討し、また、メンバーからのアドバイスにより、玄関先をなじみ易く改善するなど、サービス向上に繋げている	○	運営推進会議への参加を市町村担当者や地域包括支援センターに働きかけるなどの取り組みが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は、現在は分からないことを問い合わせするなどである。	○	運営推進会議への参加を要請し、それを機会に市町村との連携を深め、共に質の向上に取り組むことを期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は、家族の殆どの方が週一回の割合でホームに訪問されているので、その時に報告している、金銭管理もその折に出納簿を見てもらいサインをいただいている。	○	ホームに来られないときや頻繁に来られない家族もあると思われるので、月に一度入居者の近況報告と金銭管理の報告をするなどの取り組みが期待される。「ホームだより」の発行も期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情や意見の受け入れ方法が明記されており、家族の訪問時や運営推進会議でも苦情や意見を表せる機会があり、ホームの運営に反映させている。	○	重要事項説明書の苦情申し立て先の窓口担当者の名前を明記されることが望まれる。また、家族会の立ち上げの検討も期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の大半が法人のデイサービス利用者で、新職員もデイサービスを経て入職されるので職員と馴染みの関係がある。また、入職時の教育で入居者への関わり方を教育し、ダメージを与えないよう配慮されている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新職員の研修を行い、随時フォローアップ研修も実施されている。研修後は報告書の提出と他のスタッフへの報告がなされている。	○	外部研修も計画的に受講できる取り組みと報告書を全職員が閲覧できる方法の検討が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のデイサービスとは勉強会を一緒に行いサービスの質向上に向けて話し合われている。	○	法人外の同業者との交流会や勉強会に参加できる取り組みが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスを通して馴染みの関係を持ち、本人が納得してホームに移っている、また、見学の機会を持ったり、新入居者は声掛けを多くしたり、家族の協力を得て何回か来てもらうなど、安心感を得られるよう支援している。家族に泊まっていただく設備もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の先輩と言う気持ちで接し、一緒に過ごしながらか、経験されたことなど話していただけるように働きかけ、入居者から教えてもらったことや、やっていただいたことに御礼を言う関係作りに努力している。職員は入居者の一人ひとりと密に接することを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを知るために、職員は試行錯誤し、囲碁や将棋を学んだり、様々な工夫をして取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には毎日接する中から聞き出し、家族には面会時に意見を聞き、他のスタッフの意見も考慮して担当職員が介護計画を立案し、ケアマネージャーが検討を加え、介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見なおしは半年に一回行っているが、状況の変化した時は、家族に口答で報告し、対応した支援がなされている。しかし、介護計画はその都度書き直しされていない。	○	今後は、状況の変化に応じて変更があれば、その都度介護計画書に書き加えるか、新たに介護計画書を作成されることが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時などで家族の都合がつかない時には、送迎サービスを行っている。希望があれば、法人のデイサービスの利用もできる。家族の宿泊にも対応できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には月二回訪問診察をしてもらい、また、必要に応じて受診や訪問診察も可能である。なお、本人や家族の希望のかかりつけ医への受診や通院は家族同伴で行われている。家族の都合のつかない時は職員が対応しているなど適切に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の受け入れは前向きな姿勢であり、ご家族や主治医と相談しながら、家族の意向に沿って方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような声掛けの徹底や情報伝達時は名前ではなくイニシャルを使うなどして配慮している。個人記録等の保管は中が見えない戸棚に収納されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意向やこれまでの暮らし方を考慮して、デイサービスに行く人や喫茶店に行く人、残る人など希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週二日と朝食はホームで食事を作っているが、他の日は、昼と夕食の副食に宅配を利用している。盛り付けや食器の後片付けを入居者と一緒に行っている。食事中は一人ひとりのこれまでの習慣を尊重して支援している。	○	食べたいものや旬のものを楽しんでいただきたいとの職員の気持ちもあり、入居者と共に食事を作る楽しみのためにもホームで作る機会を多く持つことが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は二つあり、入浴は希望に応じられるように努力している。毎日入浴したい人は毎日の入浴が可能で、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人にできることはやっってもらい感謝の言葉を添えるようにしている。また、一人ひとりの楽しみを見つけ出す努力や工夫をして、職員も囲碁や将棋をマスターしたり、宝くじを購入したりして取り組んでいる。ボランティアも受け入れている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、喫茶店、デイサービスなど希望されるところへ日常的に外出支援している。家族と外食を楽しみにしている人には家族の協力も得ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームとしては鍵を掛けない支援をしているが、1階が他法人のデイサービス（認知症対応）であり話し合いの結果、不審者の侵入防止の為に民家であった時の自動ロックがそのまま使用されている。家族等に説明し理解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署より来てもらい、防災訓練を行っている。協力医にも災害時の対応を相談し、指導を受けている。夜間のために火災通報器を二箇所に設けている。本年は秋に防災訓練を行う計画がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一食一食について、カロリー計算がされている。水分は一日1500mlは取れるように支援されている。摂取量は個人記録に明記されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の居間のフローリングの一部に畳を敷いたり、ソファを配置するなど居心地良い空間になっている。ベランダにはゴーヤと朝顔が植えられて、季節感と日よけになっている。目を和ませる緑の配置にもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の使い慣れた家具や置物、人形、絵など思い思いのものが持ちこまれ、その人らしい部屋になっており入居者が落ち着いて過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。